

令和5年度第4回 神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

令和5年12月13日（水）13：30～17：45

■ 開会

（本日の予定を説明）

- 委員8名での開催。
- 会議の流れを説明
 - 13時30分～14時10分 事前確認
 - 14時20分～14時45分 令和6年度ボランティア団体成長支援事業のプレゼン審査
 - 14時55分～15時25分 プレゼン審査に対する選考
 - 15時25分～17時00分 令和5年度ボランティア活動奨励賞の選考
 - 17時00分～17時15分 協働事業負担金協議調整状況の報告
 - 17時15分～17時45分 基金21の見直しについて
 - 17時45分 閉会

（審査会長より開会の宣言）

- 令和5年度第4回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開会する。
- 本日の会議は、率直な意見交換の場を確保し、公平な審査をする必要があるため、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当し、非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■ 審議事項1 令和6年度ボランティア団体成長支援事業の選考

（事務局から以下について説明）

- ボランティア団体成長支援事業の応募状況
- 来年度のボランティア団体成長支援事業に係る予算
- 審査委員と利害関係のある団体からの提案なし
- 事務局からプレゼン審査対象団体の提案概要及び幹事会での事前調査結果について報告（資料1）

（委員による審議）

- ボランティア団体成長支援事業への提案事業に係る公開プレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（公開プレゼンテーション審査の実施）

- ボランティア団体成長支援事業の提案事業に対する公開プレゼンテーション審査を次のとおり行った。なお、傍聴は会場での参加のみであった。

【組織基盤を見直すパブリックリレーションズ構築支援】

特定非営利活動法人森ノオト（以下「森ノオト」という。）によるプレゼンテーション実施。

<質疑>

（高村委員）

今回の提案は、今年度の経験に基づいての提案だと思うが、特に中間支援団体に初期アウトカムとして、ボランティア団体のアドバイスをできるような移転を図るということだが、具体的にテキストを使った後にどのように広げていくような計画になっているか。

（森ノオト）

テキストを作成後、テキストを活用して、初期支援の集合研修を行っていく。これは、中間支援組織1団体と共催で、集合研修を実際に行ってみる。そこに中間支援組織の参加を募ろうと思っている。そこから、どのように講座を運営していくのか、あるいは、テキストの内容をどのように県内のボランティア団体に伝えていくのかというのを現場で見させていただこうと考えている。

また、10団体に向けて個別伴走支援を行っていくが、中間支援組織のスタッフにも伴走支援の同行を募ろうと思っている。一緒に伴走支援に出向いてもらうことによって、具体的に伴走支援をどのようにやっていくのか、現場で見させていただこうと思っている。

初期アウトカムの移転は、テキストと集合研修で行うが、伴走支援は、希望団体に同行してもらうことを考えている。

（高村委員）

伴走支援に参加する中間支援組織は、何団体を想定しているか。

（森ノオト）

今年度、サポートいただいている3団体を優先に声掛けをして、初期支援の集合研修の時に、参加を声掛けし、その中でも希望があったところに同行を募りたいと考えている。

（高村委員）

今年度の事業が、第3四半期までいっているが、その実績について伺いたい。

（森ノオト）

現在、10団体の個別支援は順調に進んでいて、個別支援の第3回目を12月に行っているところ。例えば、最初は、やはり顧客という団体が情報を届けたい相手を絞ることを団体毎に行っている。今、必要なのが情報を届けたい相手なのか、それとも寄付やボランティアなど、サポートをしてもらう人に情報を届けたいのかという優先順位の整理をして、その中の一つを徹底的にやり抜くことを、各個別支援団体の方でアドバイスをしている。

具体的には、例えば若者の居場所支援をしている団体は、現在、クラウドファンディングで寄付を行っているが、クラウドファンディングのどのような情報を発信していくのかというスケジュールを一緒に立てたり、代表以外のスタッフにもできるようにしたり、といった具体的な支援を行っている。

(高村委員)

提案事業に、アドバイザーの記載があったが、アドバイザーパートナーの4名は具体的にどの方を予定しているか。

(森ノオト)

横浜市市民協働推進センターのセンター長、かわさき市民活動センターの方、ひらつか市民活動センターの方、そしてそのスタッフの方々1, 2名ほどを予定している。

(高村委員)

今後の展望として、中間支援組織と貴団体のような専門性を有する団体とのオペレーションという記載があったが、具体的にどのような計画を立てているのか。

(森ノオト)

今年度、中間支援組織の方々に、森ノオトの事業を移転するとなった時に、どの程度どこまでが可能かということ、具体的に相談した。やはり、皆さん窓口業務が大変多忙であり、全部個別支援を実施していくことは難しいという回答であった。では、どのようなところは必要か、というところで、初期支援のビジョンミッションや、顧客の可視化は、普段の相談業務でもきちんと整理をするところなので、広報発信のテキストがあると良さそうだと判断した。

一方で、我々のような団体やキャッチコピー支援、デザイン支援、ファンドレイジング支援を行っているような、専門的な中間支援を実施している方々は、個人として事業にしている方々がいるので、中間支援組織や広報、ファンドレイジングの専門性を持った方々、そして地域のNPOが共に広報によって、生き生きとした市民社会を目指すという関係性を、広報という分野できちんと互いに把握し、それぞれの持ち場でやるべきことを明らかにしながら、全部を1団体でやるのではなく、関係性の中でそれぞれ分担をしていくような世界観を作っていきたいと考えている。

(山岡委員)

今回の提案は、令和5年度の事業と比べると、中間支援が間に入るなど、事業の提案が変わってきているが、令和5年度の事業の成果を令和6年度の異なる提案にどのように活かしているのか。

(森ノオト)

令和5年度、最初に、自主事業の中で行っているが、プレゼンスライドにある、ロジックモデルを作成したことが1つ大きくあった。その中で、基金21でも考えられているボランティア団体が生き活きと、それぞれのやるべきことを邁進している、ボランティア団体それぞれの専門性を持って活動をしていると思うが、そういった団体が元気であるために、我々のような広報を専門とした団体がどのようなサポートをできるのか整理すること。そして、中間支援組織という、ボランティア団体が最初に行き詰った時や悩みを抱えた時に相談をする団体が担えるところが何かを、整理した。

初期成果を全部で10に分け、その中で、例えばビジョンミッションの策定有無や、広報物の納得度、広報戦略の策定レベルという指標を出し、その中で、専門性を持った団体ができるところと、中間支援組織のまず入り口の窓口の団体に担ってもらう方が良いことを具体的に分け、その初期成果の中の更に初期アウトカムという部分を中間支援組織に担ってもらうことを事業提案の中に盛り込んだということが1つの大きなポイントだと思う。

(山岡委員)

対象となる団体について、令和5年度の実施の成果とも関連すると思うが、団体の中で複数の広報ツールを実施していることや、団体の中で複数人参加できることが条件になっているが、必ずしもそれが可能でない団体もあると思う。そのような団体は対象としないという理解でよいか。

また、それを踏まえた上で、幅広い領域の団体を支援できると説明があったが、この事業を必要としている団体はどのような団体だと考えているか、また、そこに対してどのようにアプローチしていくのか。

(森ノオト)

団体が数人で参加できることを必須の条件と考えている。プレゼン資料にある、広報や組織支援で考えると、1人親方で1人が外に向かって発信をしている中では、組織ではないと考えている。組織としては、チームを作り、それぞれの役割分担を持って代表者以外の人がかちんと団体の目指すべきところというビジョンミッションを理解し、自らの言葉で発信をしていく、事業の共感をしていくことで、組織の強化をしていくために複数人体制で参加をすることが必須条件だと思う。

また、県内のボランティア団体は非常に多様であり、神奈川県はとても広いので、どのような団体に参加していただくかということは、エントリーシートをかなり細かく書いていただくことと、エントリーした全ての団体の面談を行う。

どのように届けていくかということに関しては、中間支援組織の方々に、このような事業を実施するため団体の候補をお願いします、ということで、メールマガジンの発信や、窓口で個別にチラシを渡してもらうような、具体的なお願いをさせてもらう。

結果的に、本年度、県内の横浜中心部から神奈川県西部まで、いろんな団体が揃う形になったが、来年度も可能であれば、横浜市だけでなく、神奈川県西部など、そうした団体に

も参加していただきたいと考えている。

(山岡委員)

中間支援組織に対して、テキストを用いて研修を行うということで、また、事前にどこまで可能か相談したところ、通常業務が多忙だという話もあった。アプローチをしたとしても中間支援組織の力量次第で、できることとできないことがあると思われるが、そのことについてはどのように考えているか。

(森ノオト)

できるところだと、やはりセンター長や理事長クラスの方が、事業内容を理解してやるところになってくると、正直なところ、今回ヒアリングをして実感した。実際、中間支援組織に対する研修を行うのではなく、いわゆるボランティア団体に向けての研修に、中間支援組織も一緒に参加をしてもらうことで、ここなら私たちもできるかもしれない、とか、この部分だったらスタッフでもできそうだというものを、皆さんに把握していただき、集合研修が中間支援組織に移転が可能かどうかということの検証をしていくためのプロトタイピングでもあると考えている。最終的にテキストを作成し、それを実際に集合研修で実施し、更にそれを検証して、どこまでどのような形であれば実現可能か、報告書にまとめて皆さんに届けることまで考えている。

(山岡委員)

伴走支援について、伴走支援スキル移転のために必要な要素をヒアリングすると提案書に記載があるが、今の時点でどのような要素が挙がってくると考えているか。

(森ノオト)

団体の事業規模に対して、ずっとボランティアで続けていくか、人を雇用して持続可能な組織体制にしていくのかといった、ファンドレイジング的な支援アドバイスができるかどうかとも必要になってくると思う。まさに、中間支援組織のスタッフの中でも、どのレベルの支援だと、どのスタッフが参加すると望ましいかなど、色々あると思うため、具体的に同行してもらい、できることやできないことが出てくると思うため、具体的にヒアリングして項目化していきたいと考えている。

(委員による審議)

○ ボランティア団体成長支援事業の提案事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。

※ 選考結果は後日団体に通知。

■ **審議事項 2 令和5年度ボランティア活動奨励賞の選考**

(事務局から以下について説明)

- ボランティア活動奨励賞の応募状況(資料2)
- 事務局から幹事会の事前調査結果、事務局の現地調査結果について報告(資料3、4)

(委員による審議)

- 令和5年度ボランティア活動奨励賞受賞者を選考した。

■ **報告事項 令和6年度協働事業負担金の調整状況**

- 令和6年度協働事業負担金の調整状況について、事務局から報告。(資料5)

■ **閉会**

(審査会長より閉会の宣言)

- 令和5年度第4回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)